

第109回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2018年9月10日(月) 14時～17時

兼題「秋の蚊」

- 川井素山 ○民宿の金目煮つけや遠花火
残る蚊を朝刊で打つ昨夜の仇^{よべ}
牛の目に映る牧場や秋の色
名刹の長き回廊つくつく
- 保井寶正 ○百歳を想いえがきつ菊の酒
新蕎麦や一杯の酒嚼むごとし
秋の蚊やほとけにすがる黙^{もだ}の居間
残暑の僧英語まじりのおもてなし
- 佐久間喬 ○秋の蚊や車内に潜みひと騒ぎ
オクラにもトップブランド粘りよし
絶品を求め列なす浴衣の娘
枝豆や温き莢より飛び出せり
- 丸山酔宵子 ○オリーブの葉がキラキラと雲の峰
頭垂れ風に素直な稲穂かな
線香の煙に浮かぶ秋蚊かな
俺だよと言ってまつわる秋の蝶
- 菊地崇之 ○星降りて虫の音透ける平泉
永い夜作句初むや長眠^{ながい}する
双子猫油虫獲り戯れ廻る
秋の蚊や世を憚る惚けし我
- 吉田啓悟 ○連日の齒をむき迫る残暑なり
中尊寺奥へ奥へと秋の声
秋の蚊や旨い地酒で献杯す
秋場所に引退かける面構へ
- 青木英林 ○蕎麦の花空一面の雲の群れ
秋の蚊や焦り感ずる羽音かな
雲の間に見え隠れしつ月巡る
鈴虫や奏でる音色夜を徹し

- 山本草風 ○我が歳に父は冥界夕端居
美術館老人 壮^{さか}ん秋暑し
哀れ蚊や命を繋ぐ羽音たて
秋が来る季節 瞬^{またた}き風一陣
- 佐伯兵庫 ○無駄遣いうるさき妻のいぬ夜長
恋人に7ミリ強いる温め酒
新涼のいきがいさがすボランティア
秋の蚊の芥のごとくふわふわと
- 佐久間たか子 ○秋めくや心地良き夜具山の朝
水墨の山萩揺れて風を観る
萩の風集まりて兎のなびく髪
秋の蚊のゆらり払えぬ我も哀れ
- 渡辺鯨波 ○夕端居埴輪のように微睡みぬ
秋の蚊や妻の小言に耳貸さず
秋の蚊やエンディングノート書き初むる
うりぼうのスキップを踏む草の花
- 澁谷瑠璃 ○熱視線避く為だけのサングラス
- 原 晶如 ○秋の蚊の残る執念痛痒き
縄文のビーナス土偶豊の秋
じゅつと鳴き皮ぱりぱりの初秋刀魚
六根を清め行く山おにやんま
- 後藤克彦 ○欲深の願い流すや天の川
夏祭り年ごとに減る屋台かな
土用入り高値の鰻横目かな
秋の蚊や飛ぶ力無く犬の背に
- 永井正孝 ○秋の蚊の元気に我刺す酷暑かな
邯鄲や湯殿を守るこゑ激し
木屋の匂いの中に季節知る
垣根越し白木槿一つ風に揺れ
- 青葉ひかる ○白い秋逢いたし君は黄泉のくに
燃える陽ざし姿隠して秋の蚊に
追いかけてコスモスに揺れる追憶は
レイライン伊勢の菊香るアールグラージュ

次回「萩句会」

日時 2018年10月8（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『硯洗う』『洗硯』一句

当季雑詠 三句